

「ベンゾジアゼピン系薬物（睡眠薬、抗不安薬）の 副作用、依存性について」

睡眠薬や抗不安薬による薬物依存。それは精神科や心療内科などの医師たちが、長期の漠然とした処方で作りに出した「薬害」であり、明らかな医原病といえます。この事について、副作用である薬剤性眼瞼けいれんの論文を発表された医師、被害当事者等の立場から発表させていただきます。また、厚生労働省担当者と被害当事者との意見交換も行います。

日時) 2019年11月7日(木) 13時～15時30分

会場) 衆議院第1議員会館 第1会議室(B1)

(千代田区永田町2-2-1 丸の内線 国会議事堂前徒歩5分)

参加費) 無料 (一般の方は入口で通行証をお受取り下さい)

講師) **ベンゾ被害当事者** **ダグラス・ウェイン氏**

世界ベンゾ注意喚起の日(W-BAD)創始者、アシュトンマニュアル
日本語版共同翻訳者、ベンゾジアゼピン裁判で最高裁まで闘った経験者



井上眼科病院名誉院長 **若倉 雅登医師**

薬剤性眼瞼けいれんを研究、論文筆者、NPO法人目と心の健康相談室
副理事長、「その目の不調は脳が原因」著者



東京都都議会議員 **上田 令子氏**

都立病院医師の製薬会社からの利益相反自己申告違反を指摘、安易な
子どもへの向精神薬投与にも警鐘を鳴らす



主催) 向精神薬による薬害を考える会 協力) 世界ベンゾ注意喚起の日(W-BAD)